

2018（平成30）年度

学習計画 （シラバス）

第1学年事務情報科



科目一覧（単位数）

- 国語総合（2単位）
- 世界史 A（2単位）
- 数学 I（2単位）
- 科学と人間生活（2単位）
- 体育（3単位）
- 保健（1単位）
- 音楽 I（2単位）
- コミュニケーション英語 I（2単位）
- ビジネス基礎（3単位）
- 簿記（4単位）
- 情報処理（5単位）

平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	国語総合	単位数	2 単位	学年・学科	1 年 事務情報科
教科書	高等学校 改訂版 国語総合(第一学習社)	副教材	パーフェクト常用漢字(第一学習社) プレミアムカラー国語便覧(数研出版)		
教科目標	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし心情を豊かにし言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。				
授業内容 進め方	・教科書を中心に読解を行います。読解のまとめとして表現活動を行います。 ・週一回漢字の小テストを行い、語彙力を高めます。				
授業の留意点	国語総合は、現代文・古典の分野を学習します。 現代文では「随想」「小説」「評論」「詩・短歌・俳句」を学習します。単元ごとの課題と、その課題を達成する方法を意識して、読解力を身につけましょう。 古典では「古文」「漢文」を学習します。音読、語彙、文法の基礎知識を大切に、自分の力で古典を楽しめるような力を身につけましょう。				
学習方法 (アドバイス)	授業での調べ学習・表現活動などに積極的に参加して下さい。また、授業での解説はしっかり聞き、集中して丁寧にノートを取るようになって下さい。漢字小テストや古典文法定着のための家庭学習も行なって下さい。漢字は正しく書けるよう何度も練習し1年生のうちから語彙量を増やすよう心がけて下さい。読む時間・書く時間では集中して課題に取り組んでください。				
課題・補習	適宜行います。また、長期休業中に成績不振の者に対して補習を行うこともあります。				
試験について	試験は定期試験4回。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	・授業の取り組み ・授業ノート提出 ・課題プリント提出 ・定期試験			
	②話す・聞く能力	・授業参加の取り組み ・音読、暗唱への取り組み ・発表、ディベートの取り組み			
	③書く能力	・授業の取り組み ・課題(レポート・作文)の提出 ・書く時間の課題の提出 ・授業ノート提出 ・定期試験			
	④読む能力	・授業の取り組み ・読む時間の課題の提出 ・定期試験			
	⑤知識・理解	・漢字小テスト ・漢字コンクール ・定期試験			
備考					

平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	世界史A	単位数	2 単位	学年・学科	1 年 事務情報科
教科書	「新版世界史A 新訂版」(実教出版)	副教材	「新版世界史A演習ノート」(実教出版)		
教科目標	世界の歴史を、わが国の歴史と関連づけながら理解させ、人類の課題を多角的に考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。				
授業内容 進め方	・基本的事項を理解した上で、事象に対して何故そうなったのかという考察を深められるようにする。 ・資料集を活用し、複数の資料に触れることにより資料の収集力や活用能力を身につけます。 ・適宜小テストを行い、知識の確実な定着を図ります。				
授業の留意点	歴史的事象の単純な暗記ではなく、歴史の大まかな流れをつかむことを意識する。時代の変革期の前後関係を詳しく知り、世界の国々がどのような過程を経て成立し、今日にどのような影響を与えているのかを理解します。そして、私たち日本人がどのように対応するべきかを考え、国際社会に生きる力をつけたいと考えます。				
学習方法 (アドバイス)	世界史の流れをつかむためには地理的知識も必要です。資料集付録の地図を活用し、各国の関係を視覚的につかんでください。また、小单元ごとに「一問一答」を復習し、基本的事項の確実な定着をはかってください。				
課題・補習	必要に応じて実施します。				
試験について	年間4回の試験を実施します。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国際社会に主体的に生き、国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。 (授業態度、発言・発表内容、提出物)			
	②思考・判断・表現	世界の歴史から課題を見出し、文化の多様性・複合性や現代世界の特徴を多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。 (授業態度、発言・発表内容、提出物、試験)			
	③技能	世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択し得て、読みとったり図表にまとめたりしている。 (課題取り組み、提出物、試験)			
	④知識・理解	世界の歴史についての基本的な事項を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。 (小テスト、試験)			
備考					

平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	数学Ⅰ	単位数	2 単位	学年・学科	1 年 事務情報科
教科書	「改訂版 最新 数学Ⅰ」(数研出版)	副教材	「3ROUND 数学Ⅰ」(数研出版)		
教科目標	高等学校数学の基礎を定着させることを目的とする。そのために各自の計算力を向上させることを目標にする。 基本的な計算問題を確実に解けるようにした上で、若干難しい問題に対しても積極的に取り組もうとする姿勢を身につける。なお、適宜課題学習を行う。				
授業内容 進め方	教科書の内容を主に行うが、必要に応じて中学校で学習した内容の確認・復習も行う。例題、練習問題を通じて各自が解法を理解し、更に副教材の問題演習を行うことにより基礎の定着をはかる。状況を見て、副教材にある応用例題にも取り組むこととする。 時間的に余裕のある場合には、副教材以外にもプリント等で問題演習を行う。				
授業の留意点	基本的な問題を大切にすること。教科書の例題、練習問題は確実にできるようにすること。その中でわからないことがあった場合には、わからない所を明確にした上で質問するなどしてきちんと理解しておくこと。それができた後、副教材の問題を積極的に解き自分の学力向上に努める。				
学習方法 (アドバイス)	手順を追って計算することが苦手なために最後まで問題を解ききることができず、数学を苦手だと感じている人は少なくない。基礎計算力を確実に定着させれば、自ずと数学嫌いが解消される場合も少なくない。自分の学力と苦手を各自が把握し、繰り返し演習に取り組むことで学力は向上する。				
課題・補習	教科書の補充問題、章末問題、副教材の問題のうち授業で扱わなかったものを課題とする場合がある。但し、提出を課さない場合でも、各自が学習することが望ましい。日常の補習は行わないが、必要に応じて補習を行うこともあり得る。				
試験について	試験は定期試験4回のほかに確認試験を行う場合もある。試験全てを総合的に判断して評価する。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	各章における考え方に関心をもつとともに、積極的に演習に取り組み技能を修得しようとする姿勢を身につけているか。また、事象を数学的に考察し判断しようとしているか。 ・学習活動への取り組み ・課題や提出物の状況(ノート、プリント、レポート等)			
	②思考・判断・表現	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けているか。 ・試験 ・提出レポートの内容 ・提出ノートの内容			
	③技能	事象を数学的に表現・処理するために必要な技能・知識を身につけているか。また、それらを活用する方法や推論の方法などを修得しているか。 ・試験 ・小テスト			
	④知識・理解	各章の考えにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けているか。 ・試験 ・小テスト			
備考					

平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	科学と人間生活	単位数	2 単位	学年・学科	1 年 事務情報科
教科書	新科学と人間生活(数研出版)	副教材	新科学と人間生活整理ノート		
教科目標	普段の生活において、身の回りの事物・現象に関して観察、実験などを通して理解させ、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。				
授業内容 進め方	科学と人間生活の授業に関しては講義形式によりシラバス通りの配列で進みます。 各編それぞれ2章あるうちの一方を学んでいきます。 物理:第1章 化学:第1章 生物:第2章 地学:第1章				
授業の留意点	中学での既習事項、物理・化学・生物・地学の各科目との関連事項を意識して学習する。 科学的な見方や考え方に興味をもち、科学的な考え方がこれから生きていく上での道標の一つとなるように学習する。				
学習方法 (アドバイス)	学習内容が私たちの生活する街で見られる身近な現象であることを認識し、私生活の中で様々なことに興味をもち、科学的に考える癖をつけるようにしてください。				
課題・補習	進行度に応じて行います。				
試験について	定期試験を4回行う他、進度に応じて授業の中で確認テストを行います。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	自然の事物・現象に関心をもち意欲的に探求する姿勢がある。 ・学習活動への参加状況 ・ノート、課題などの内容と提出状況			
	②思考・判断・表現	日常生活において事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現する。 ・定期試験の解答の内容 ・レポートの内容 ・発言の内容			
	③技能	観察、実験において過程や結果を的確に記録、整理する。 ・実験、観察の授業中の実験器具操作や方法 ・レポート、定期試験の解答の内容 ・発言の内容			
	④知識・理解	基本的な概念や原理法則を理解し、知識を身につけている。 ・定期試験の解答の内容 ・レポートの内容			
備考					

平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	体育	単位数	3 単位	学年・学科	1 年 事務情報科
教科書	「ステップアップ高校スポーツ」 「現代高等保健体 改訂版」 大修館書店	副教材	指定ジャージ、指定靴 指定Tシャツ、柔道着(男子)		
教科目標	運動を意欲的に実践し、調和の取れた心身の発達を目指す。また、運動を通して公正・協力・責任などの態度を学び、生涯を通じて計画に基づいて継続的に運動ができる資質や能力を身につける。				
授業内容 進め方	各種運動を実施しながら学んでいく。				
授業の留意点	① 指定ジャージの管理 ② 時間を守る ③ 安全性への配慮 ④ 指示を聞く姿勢と態度 ⑤ 用具の準備・片付けと協力 ⑥ 他の生徒との協調 ⑦ 体調が悪くなったり、怪我をした場合はすぐに教科担任に申し出ること				
学習方法 (アドバイス)	日頃から心身の健康や体力に関心を持たせ、各種目の技能向上を目指す。また、生涯にわたり体育的活動に親しむことが出来るように、興味を持って取り組むことや、他者とのコミュニケーションを取りながら協力し合って授業に望むことが出来るようにする。さらに、事故や怪我等、安全面への配慮も確認する。				
課題・補習	状況に応じて実施。				
試験について	種目毎、授業の進度に応じて適宜実施。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	服装・身だしなみ・協調性等			
	②思考・判断・表現	毎時間の取り組みを観察する			
	③技能	種目毎の実技試験による評価			
	④知識・理解	授業内での観察や筆記テスト等			
備考					

平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	保健	単位数	1 単位	学年・学科	1 年 事務情報科
教科書	「現代高等保健体育 改訂版」 大修館書店	副教材		「現代高等保健体育ノート改訂版」 大修館書店	
教科目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深め、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育てる。				
授業内容 進め方	教科書・ノート、必要に応じてプリントを使いながら学習していきます。				
授業の留意点	①個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践するため、意欲的に学習に取り組もうとすること。 ②個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関する課題の解決を目指して、科学的に思考し、総合的に捉えるよう学習に取り組むこと。 ③健康・安全の意義を理解するとともに、現代社会と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けること。				
学習方法 (アドバイス)	試験が年に2回なので、毎時間の授業で教科書の内容やノートの問題をしっかりと理解し、試験に備えておく必要がある。また、日頃から健康問題や保健・医療サービス等に関心を持つことも重要である。				
課題・補習	状況に応じて実施。				
試験について	試験は前期期末試験と学年末試験の2回実施。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	授業中の態度や発言など			
	②思考・判断・表現	課題解決学習への取り組み			
	③技能	発表やレポートの内容、定期試験			
	④知識・理解	定期試験、小テストなど			
備考					

平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	音楽Ⅰ	単位数	2 単位	学年・学科	1 年 事務情報科
教科書	音楽Ⅰ Tutti (教育出版)	副教材			
教科目標	① 音楽の幅広い活動を通して、感性を高め、音楽を愛好する心情を養うことができる。 ② 曲想を把握し、工夫して演奏することができる。 ③ 様々な鑑賞を通して、楽曲の国や地域の特徴や歴史的背景を理解することができる。 ④ 音楽の組み立て方を理解し、創作することができる。				
授業内容 進め方	音楽科では、「歌唱」「器楽」「鑑賞」「楽典・音楽史」の4つについて学習します。 「歌唱」では斉唱から合唱までを行います。日本語だけでなく、外国語の歌にも挑戦します。 「器楽」は全員アルトリコーダーの演奏をします。ソロからアンサンブルまでを行い、その際にはソプラノ、テナー、バスリコーダーに分かれて行います。 「鑑賞」ではCDやDVD・ブルーレイディスクを使用し、音楽の種類や形式、音楽史（作曲家の国や地域・歴史的背景）等、楽曲について学習します。 「楽典・音楽史」は、中学までの基礎・基本の復習と、歌唱や器楽の表現活動に必要な知識を習得します。				
授業の留意点	実技教科である音楽では、何よりも普段の授業での取り組みが重視されます。 授業で扱う楽曲に意欲的・積極的に取り組みましょう。授業に関係のない私語は、興味・関心が無いことの現われ、授業に参加していないと判断されます。授業の中で配られた楽譜やプリントには、必ず氏名・日付等を記入しましょう。（ファイル・チェックが有ります。）				
学習方法 (アドバイス)	実技試験を多く実施しますが、授業中の練習で十分達成できる課題を設定しています。 授業の時間を十分活用しましょう。このほかに定期考査を実施しますので、授業で配られるプリントや教科書を用いて復習をしっかりと行ってください。				
課題・補習	課題等が出されることは多くはありませんが、歌唱・器楽での実技試験で合格ラインに到達できなければ補習を行います。補習に成らない様に、自主的な練習をしておいて下さい。 また、欠席やケガ等の理由で試験を受けられない場合は、後日追試を行います。				
試験について	定期試験（前期期末、学年末）の他に、実技試験を行います。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	① 関心・意欲・態度	授業の題材に関心を持ち、意欲的・積極的に授業に参加しているか。 (授業態度、プリントへの記入)			
	② 感受や表現の工夫	自分なりの感じ方を持ち、表現の工夫することができるか。 (授業態度、実技テスト)			
	③ 表現の技能	演奏の能力や表現に必要な基本的知識が身についているか。 (実技テスト、定期考査)			
	④ 知識と鑑賞の能力	音楽を理解し、その良さや美しさ・奥深さを味わっているか。 (授業態度、プリントへの記入(ファイル・チェック))			
備考	音楽Ⅰの授業を通じて、私達の身の周りにあふれる様々な音楽の中に有る素晴らしいものに 気づき、生涯音楽を愛好する姿勢を養ってほしいと願っています。				

平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	コミュニケーション英語Ⅰ	単位数	2 単位	学年・学科	1 年 事務情報科
教科書	VISTA English CommunicationⅠ	副教材	VISTA English CommunicationⅠ WORKBOOK 英単語ターゲット 1200		
教科目標	日常的な話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。 具体的言語活動は次の通り。 (1) 身近なことについて簡単なやりとりや、自分のことについて話すことができる。 (2) 自分のことについて簡単な文章を書くことができる。 (3) ゆっくり話されれば、身近なことに関する話や指示を理解することができる。 (4) 簡単な物語や身近なことに関する文章を理解することができる。				
授業内容 進め方	・教科書やプリントを使いながら文章の内容把握をする ・文章の要約等をとおして情報の概要や要点をとらえる、またそれを伝える ・情報や文章から考えたこと、感じたことについて意見を交換する ・自分自身のことについて表現する 以上の項目をとおして4技能を総合的に育成する				
授業の留意点	・言語活動に積極的に参加して学習すること。 ・音声的な特徴(アクセント・イントネーション)や日本語との違いに注意しながら発音すること。 ・まとまりのある文章を音読・暗唱することをとおして英語の文章の流れに慣れること。 ・違いを認め合う姿勢で他者を尊重すること。				
学習方法 (アドバイス)	・授業中の言語活動に積極的に参加すること。 ・自分の意見を持つこと。 ・学習ノートや教科書・プリントの復習に努めること。 ・音読練習をすること。				
課題・補習	家庭学習用単語練習、学習ノート(既習事項確認用)を課題として適宜提出する。 長期休業課題、週末課題(UNIT 1 他)を課す。				
試験について	定期試験を年4回実施する。 ※試験とは別にパフォーマンステスト(実技テスト)を実施する				
評価の 観点・方法	評価の観点		評価方法		
	① コミュニケーション への関心・意欲・態度		・コミュニケーション活動に関心をもち、積極的に言語活動に取り組んでいるか。 ・自己表現活動や他者との意見交換に積極的に取り組んでいるか。 ・自己の技能向上のために取り組んでいるか。 (各活動への参加の様子の観察、ワークシート、授業の感想シート、課題提出状況)		
	② 外国語表現の能力		日常的な話題やまとまりのある文章の内容をもとに、得られた情報の概要や自分の考えなど伝えたいことを英語で話したり、書いたりして表現できているか。 (定期試験、ワークシート、スピーキングテスト、プレゼンテーション)		
	③ 外国語理解の能力		日常的な話題やまとまりのある文章の内容をもとに、英語を読んだり聞いたりして、情報や意見など相手が伝いたいことを理解しているか。 (定期試験、ワークシート、リスニングテスト)		
	④ 言語や文化について の知識・理解		日常的な話題やまとまりのある文章の英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているか。 (定期試験、小テスト、英単語コンクール)		
備考	パフォーマンステストにおける評価基準はテスト実施時に提示する。				

平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

	ビジネス基礎	単位数	3 単位	学年・学科	1 年 事務情報科
教科書	ビジネス基礎(実教出版)	副教材			
教科目標	ビジネスに関する基礎的な知識と技術を習得させ、経済社会の一員としての望ましい心構えを身に付けさせるとともに、ビジネスの諸活動に適切に対応する能力と態度を育てる。 地域創生・地域活性化の担い手として、地域に関する知識と問題解決に向けた態度を育てる。				
授業内容 進め方	教科書の内容「1. 商業の学習ガイダンス 2. 経済と流通の基礎 3. ビジネスの担い手 4. 企業活動の基礎 5. ビジネスと売買取引 6. 売買に関する計算 7. ビジネスとコミュニケーション」 応用学習「地域の現状と課題を考える(地域創生と観光)」				
授業の留意点	1. 日本や世界で起こっている経済やビジネスに興味・関心を持つこと。新聞やニュースに興味関心を持つこと。 2. 自分が住んでいる地域を知ること。 3. 授業前に教科書の内容を読んでおくこと。 4. ノート・配布プリントを大切にすること。特に、エピソード等もメモしておくこと。				
学習方法 (アドバイス)	わからないところはそのままにせず、授業中に質問などをして解決する努力が必要です。授業を大切にし、説明をきちんと聞き、ノートや配布プリントにメモや補足説明を記録しておくこと。				
課題・補習	日常の授業で必要に応じて課題を出題します。提出期日を必ず守ってください。定期試験の結果によっては、成績不振者講習を行います。通常の補習はありません。				
試験について	定期試験 4回実施。(前期中間・前期期末・後期中間・後期期末)				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	課題を丁寧にこなしているか。 授業中の模擬実践を通して対応能力が培われているか。			
	②思考・判断・表現	自己の考えを正しく伝えることだできているか。 自分から進んで取り組んでいるか。			
	③技能	課題を丁寧にこなしているか。 授業中の模擬実践を通して対応能力が培われているか。			
	④知識・理解	定期試験 4回の成績により理解度を確認します。 授業の内容をより深く理解しようとしているか。			
備考					

平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	簿記	単位数	4 単位	学年・学科	1 年 事務情報科
教科書	簿記(東京法令出版)	副教材			
教科目標	簿記に関する知識と技術を習得し、その基本的な仕組みについて理解するとともに、適正な会計処理を行う能力と態度を身に付ける。				
授業内容 進め方	学習单元: (1)簿記の基礎、(2)取引の処理、(3)決算、(4)本支店会計、(5)会計帳簿と帳簿組織 授業の進め方: 教科書を中心に行います。商業の基本科目で、全員3級の資格取得を目標に学習します。				
授業の留意点	1. 毎時間の授業を大切にすること。 2. 課題(復習)にきちんと取り組むこと。 3. ノート・配布プリントを大切にすること。				
学習方法 (アドバイス)	わからないところは質問をして、なるべく早く解決すること。授業を大切にし、説明をきちんと聞き、ノートや配布プリントにメモや補足説明を記録しておくこと。練習問題などの演習を大切にすること。				
課題・補習	日常の授業で必要に応じて課題を出題します。提出期日を必ず守ってください。定期試験の結果によっては、成績不振者講習を行います。また、検定試験前にも補習を行います。				
試験について	定期試験 4回実施。(前期中間・前期期末・後期中間・後期期末)				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	授業への参加態度が良好か。 演習問題にきちんと取り組んでいるか。 ノート整理と配布プリントの整理ができているか。			
	②思考・判断・表現	会計処理を正しく理解し、正確な帳簿の作成ができているか。 自分から進んで取り組んでいるか。 (定期試験 4回、小テスト等の成績により確認します。)			
	③技能	会計法規に基づいて、正しい会計処理を習得したか。 (定期試験 4回、小テスト等の成績により確認します。)			
	④知識・理解	授業の内容をより深く理解しようとしているか。 知識を習得し、理解しているか。 (定期試験 4回、小テスト等の成績により確認します。)			
備考					

平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	情報処理	単位数	5 単位	学年・学科	1 年 事務情報科
教科書	最新情報処理（実教出版）	副教材	平成30年度版 ビジネス文書実務検定模擬試験問題集2級		
教科目標	ビジネスに関する情報を収集・処理・分析し、表現する知識と技術を習得させ、情報の意義や役割について理解させるとともに、ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用する能力と態度を育てる。				
授業内容 進め方	副教材などの問題集を使用しながら、パソコンを利用した実習形式で行う。なお、単元によっては、実習形式と並行してプリントによる講義形式も行う。 また、検定試験の受験に対応できるように関連させながら学習する。				
授業の留意点	アプリケーションソフトを利用する際の基本的技能を習得するだけでなく、それをいかに活用できるかを考えながら練習する態度が、自身の能力をアップさせることにつながり、いま学ぶことが2年、3年、そして将来働く上での基礎になるという意識を持ち、学習に取り組むこと。各検定に向けた学習にも取り組むので、自ら目標を持って取り組むこと。				
学習方法 （アドバイス）	ホームポジションやタッチメソッドなどを正しく身に付けることが、今後の技術向上につながる。最初は難しかったりやりにくくても、諦めずにコツコツと努力し、しっかりと身に付けることが大切である。また、授業内で身に付かない場合は、家庭での練習や、朝・放課後等に自主的に練習することで向上させることも必要である。				
課題・補習	検定の筆記問題を課題とする。また長期休業中に課題を課す場合もある。状況に応じて、小テスト・実技テストを行い、基準に達しなかった者については、放課後を利用して補習を行う。				
試験について	定期試験（年2回）を行う。また、授業内に確認テストを実施することがある。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	・学習活動への取り組み …◎ ・課題・提出物の状況 …◎ ・確認テスト、検定 …△			
	②思考・判断・表現	・学習活動への取り組み …◎ ・課題・提出物の状況 …◎ ・確認テスト、検定 …△			
	③技能	・学習活動への取り組み …◎ ・課題・提出物の状況 …△ ・確認テスト、検定 …◎			
	④知識・理解	・学習活動への取り組み …△ ・課題・提出物の状況 …○ ・確認テスト、検定 …◎			
備考					